

ARC USB | Advanced Remote Control USB



ユーザーガイド

RME

▶ 目次

1. はじめに	5
2. パッケージ内容	5
3. 対応オーディオ・インターフェイス	5
4. 仕様概要と特長	6
5. 技術仕様	6
6. 概要	7
7. Advanced Remote Control USB の設定	9
8. スタンドアロン・モードでの ARC USB (直接接続)	14
9. 免責事項および保証について	16
10. 追補	16
11. 日本語ユーザーガイドについて	17
12. CE / FCC 規制への適合	18

■ 重要：安全のしおり



雨の中や湿気が多い場所に置かないでください。機器に水が入ったり、ぬらさないようにご注意ください。液体の入った容器を本体の上に置かないで下さい。プールや浴槽、ぬれた地下など、水の近くでこの製品を使用しないでください。結露しないよう適切な室温でご使用ください。すべて火災・感電の原因となる場合があります。



直射日光を避けてください。また暖房機、ストーブ等異常に温度が高くなるものの近くに置かないでください。



メーカーに事前相談なく点検・修理した場合の保証は負いかねます。メーカー指定のアクセサリーのみをご使用ください。



まず本書マニュアルをすべてよくお読みください。本製品の使用と操作に必要なすべての情報を記載しています。

1. はじめに

この度は、Advanced Remote Control USB をご購入いただき、誠にありがとうございます。Advanced Remote Control USB は使用頻度の高い操作やコマンドに直接アクセスできるように設計された TotalMix FX 対応リモート・コントローラーです。毎日のスタジオ作業のあらゆる場面で最高のパートナーとなる製品です。柔軟性は極めて高く、RME インターフェイスの利便性を最大限に引き出し、ワークフローの効率化を実現します。

2. パッケージ内容

- Advanced Remote Control USB
- USB ケーブル 1.8 m
- ラベル変更用シール

3. 対応オーディオ・インターフェイス

Advanced Remote Control USB (ARC USB) は USB 経由で TotalMix FX を操作するための製品です。TotalMix FX 対応 RME オーディオ・インターフェイスのすべてでご利用いただけます。2001 年に発売された Multiface、Multiface II、Digiface、RPM などのインターフェイスにも遡ります (PCI、PCIe、CardBus、ExpressCard、FireWire を問わず対応)。

※サポート対象外：DIGI32 シリーズ、DIGI96 シリーズ、DIGI9632/9652

一部の新しい機種には、ARC USB の専用コネクタが搭載されており、スタンドアロン・モードでも使用できます。現在は Fireface UFX+、UFX II、UFX III、UCX II、802 FS、MADIface XT II がこれに該当します。

4. 仕様概要と特長

- 堅牢なメタル製ボディにユーザー・フレンドリーなボタン・レイアウトを実現
- 安定性に優れた USB1.1 による接続。長尺ケーブルが使用可能
- ボリューム、ディム、スピーカー B 切り替えなど、TotalMix の多くの機能をフル・コントロール可能
- デバイスへの直接接続時のスタンドアロン・モード操作に特化した機能

5. 技術仕様

- 電源：接続状況によりコンピューターまたは RME インターフェイスから供給
- 平均消費電力：0.3 ワット
- 寸法 (W×H×D) 90 × 33 × 170 mm
- 重量：0.438 kg (0.97 lbs)
- 動作温度：+5° ~ +50° C
- 相対湿度：< 75%、結露なきこと

6. 概要

ARC USB は USB1.1 対応のリモート・コントロールです。UAC1 クラス・デバイスとして動作し、Windows、macOS にネイティブ対応します。OS が認識した時点で TotalMix FX で使用可能になります。他のリモート・コントロールとの共存も可能です。つまり、TotalMix FX 内で ARC USB のオン / オフを切り替える必要はありません。コンピューターに接続するだけで、すぐにお使いいただけます。

各ボタンやホイールは、コンピューターと接続した直後から TotalMix FX および RME オーディオ・インターフェイスのコントローラーとして機能します。

ARC USB はコンピューターに接続する代わりに、対応インターフェイス《3. 対応オーディオ・インターフェイス》に直接接続することも可能です。この場合、インターフェイスは USB1.1 ホストとして動作します。この接続方法は ARC USB がサポートされているスタンドアロン・モードで使用する場合に特に便利です《8. スタンドアロン・モードでの ARC USB (直接接続)》。

ARC USB はバスパワーで動作しますが、必要とする電流はほんの僅かです。また接続は、低スペック・マシンでも安定動作が確認されている USB1.1 によって行われます。長さが 5 ~ 10 メートルある長尺な USB2 ケーブルや安価な USB2 延長ケーブルは、バスパワー駆動に障害が起きがちですが、ARC USB ではこれらも全く問題なく使用いただけます。より長距離のケーブルが必要な場合は、アクティブ USB2 ケーブル (エクステンション / リピーター・ケーブル) を使用することで比較的安価に 20 メートル以上の延長が可能です。

ARC USB は複数のインターフェイスを同時にコントロールできます。これは選択中のオーディオ・インターフェイスの設定を TotalMix FX の ARC & Key Commands ダイアログで行うことで可能となります。各インターフェイスで使用したい機能をアサインするだけで設定は完了です。設定完了後、ARC USB のボタンとホイールはアサインされた設定に従い各インターフェイスをコントロールします。操作するインターフェイスをその都度スイッチで切り替えたり選択したりする必要はありません。



複数のインターフェイスに対して同一の機能を割り当てることはできません。ボタンが点滅したり、ボリューム・コントロールが誤動作する場合があります。

ホイール下側の 3 つのボタンは便利な診断機能を備えます。

- **TALKBACK** ボタンは ARC USB が 5V USB バスパワーで駆動中、薄く点灯します。
- **SPEAKER B** ボタンは USB 通信が確立されると同時に薄く点灯します。
- **DIM** ボタンは TotalMix FX との接続が確立されると同時に薄く点灯します。

つまり、通常の動作では 3 つのボタンがすべて薄く点灯し続けます。

出荷時の ARC USB には、各ボタン下部に記載されるラベル通りのキーコマンドがすでにアサインされています。使用頻度の高いほとんどの操作がカバーされています。

- 1 段目と 2 段目：スナップショット 1 ～ 8 を起動。
- 3 段目：**MONO** (モノ)、**VOL PH1** (ヘッドフォン 1・ボリューム)、**VOL PH2** (ヘッドフォン 2・ボリューム)、**EXT INP** (外部入力)
- 最下段：**TALKBACK** (トークバック)、**SPEAKER B** (スピーカー B)、**DIM** (ディム)

TotalMix FX のほぼ全てのコマンドが印刷されたシールが製品パッケージに同梱されます。お使いの設定に合わせてシールを貼り替えてください。

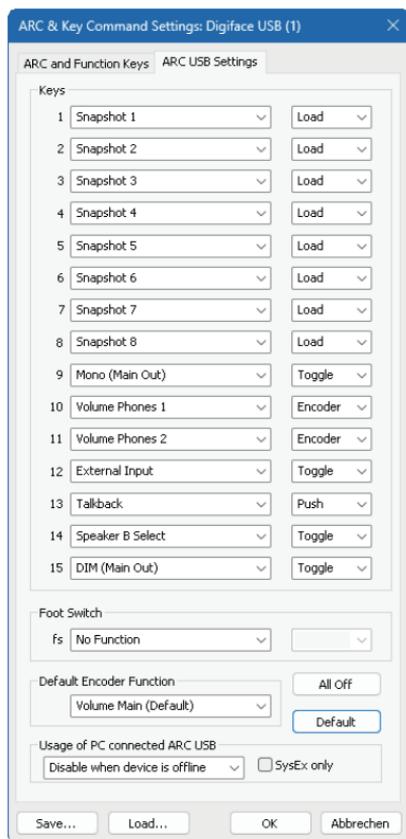
7. Advanced Remote Control USB の設定

Advanced Remote Control の設定は TotalMix FX の Options にある ARC & Key Commands ダイアログ内 ARC USB Settings タブで行います。ARC USB はメモリを搭載していません。設定はすべて TotalMix FX で保存します。設定はワークスペースに記録されます。従って同一ワークスペース内のすべてのスナップショットで同じ設定が使用されます。

40 以上のコマンドを 15 のボタンにアサイン可能です。各ボタンの動作はアサインする機能に合わせて、*Push*、*Push-or*、*Push-off*、*Push-off or-on*、*Toggle*、*Enable*、*Disable*、*Encoder*、*Encoder Push* に設定できます。

以下は現在設定可能な機能の概要です：

- No Function (機能なし)
- Toggle Totalmix Windows (TotalMix の表示 / 非表示)
- Global Mute (グローバル・ミュート)
- Global Solo (グローバル・ソロ)
- Mute Group 1 to 4 (ミュート・グループ 1-4)
- Solo Group 1 to 4 (ソロ・グループ 1-4)
- Fader Group 1 to 4 (フェーダー・グループ 1-4)
- Link Main AB (メイン・アウト (A) / B リンク)
- Speaker B Select (スピーカー B 選択)
- DIM (Main Out) (メイン・アウトのボリューム・ディム)



- Recall Volume (Main Out) (メイン・アウトのボリューム・リコール)
- Mute (Main Out) (メイン・アウトのミュート)
- Mute FX (Main Out) (メイン・アウトの FX ミュート)
- Mono (Main Out) (メイン・アウトをモノラルに)
- Talkback (トークバック)
- External Input (外部入力)
- Reverb. (リバーブ)
- Echo (エコー)
- Cue Phones 1 to 4 (キュー、フォン 1-4)
- Cue Main Out (キュー、メイン・アウト)
- Mute Phones 1 to 4 (ミュート、フォン 1-4)
- Snapshot 1 to 8 (スナップショット 1-8)
- Layout Preset 1 to 6 (プリセット・レイアウト 1-6)
- Instrument x (インストゥルメント)
- Phantom x (ファンタム)
- Volume Main (メイン・ボリューム)
- Volume Phones 1 to 4 (ボリューム、フォン 1-4)
- Volume Main 0.1 dB (メイン・ボリューム 0.1 dB)
- Mic Gain 1 (マイク・ゲイン 1)、Mic Gain 2 (マイク・ゲイン 2)、Mic Gain 1+2 (マイク・ゲイン 1+2)
- Inst. Gain 3 (インストゥルメント・ゲイン 3)、Inst. Gain 4 (インストゥルメント・ゲイン 4)、Inst. Gain 3+4 (インストゥルメント・ゲイン 3+4)
- Mic/Inst. Gain 9(マイク/インストゥルメント・ゲイン 9)、Mic/Inst. Gain 10(マイク/インストゥルメント・ゲイン 10)、Mic/Inst. Gain 9+10 (マイク/インストゥルメント・ゲイン 9+10)
- Mic/Inst. Gain 11 (マイク / インストゥルメント・ゲイン 11)、Mic/Inst. Gain 12 (マイク / インストゥルメント・ゲイン 12)、Mic/Inst. Gain 11+12 (マイク / インストゥルメント・ゲイン 11+12)

一部のインターフェイスで使用できないコマンドもあります。また、インターフェイスによってコマンドの挙動が若干異なる場合もあります。Fireface UFX、UFX+、UFX II、UFX III、UCX II では DUREC 用のコマンドが使用できます：Record Start (録音開始)、Play Start/Pause (再生開始 / 一時停止)、Record/Play Stop (録音 / 再生の停止)、Play-Next File (次のファイルを再生)、Play-Previous File (前のファイルを再生)。

複数のコマンドを同時に実行することも可能です。例：ボタン 1 を **Cue Phones 1** に設定します。これにより、ボタン 1 を押すことでヘッドフォンのサブミックスがメイン出力（スタジオ・モニター）から出力されます。次にヘッドフォン・サブミックスのボリュームを変更可能にするため、ボタン 2 を **Volume Phones 1** に設定します。これで、ボタン 1 とボタン 2 を同時に押すことでメイン出力からヘッドフォン・サブミックスを出力すると同時に、そのレベル (TotalMix FX の 3 段目のフェーダー) をエンコーダーで変更することが可能になります。

標準的なフットスイッチ（スイッチ・ペダルのみ。サスティン・ペダルには非対応）を本体右側の 1/4TS ジャックに接続可能です。15 のボタンと同様、フットスイッチの設定は **ARC & Key Commands Settings** にて行います。モーメンタリー（押している間だけ有効）及びステーションナリー（押した状態を保持）の両タイプのスイッチを利用できます。後者の場合は、Foot Switch のドロップダウン・メニューでは初期設定の Toggle ではなく Push を選択してください。

Default Encoder Function（デフォルトのエンコーダー機能）

利用可能なオプションは以下の通りです：

- Volume Main (Default)（メイン・ボリューム）
- Volume Phones 1 - 4（ボリューム、フォン 1-4）
- No function（機能なし）
- Volume Main (0.5 dB)（メイン・ボリューム 0.5 dB）
- Volume Main (0.1 dB)（メイン・ボリューム 0.1 dB）

Volume Main (Device) オプションは、ARC USB 接続端子を搭載したオーディオ・インターフェイスでのみ使用可能です。ARC USB のエンコーダーは様々な動作が可能で Shift キーを押しながら使用すると動作が変化することもあります。以下の表をご参照ください：

モード	Shift+ARC インターフェイス接続	Shift+ARC PC 接続	ステップ幅
Volume Main (Device)	使用不可	使用可能	0.5 dB（加速あり）
Volume Main (Default)	使用可能	使用可能	0.5/1.0/1.5/2.0/2.5/3.0 dB
Volume Main (0.5 dB)	使用可能	使用可能	0.5 dB
Volume Main (0.1 dB)	使用可能 (0.5 dB)	使用可能 (0.5 dB)	0.1 dB

この表は、ARC USB がインターフェイスに直接接続されている場合に、技術的な理由により「Volume Main(Device)」モードでは、Shift キーが機能しないことを示しています。Shift キーを押している場合、通常は 0.1 dB ステップ（微調整）に変更されますが、Volume Main(0.1 dB) では、0.5 dB に変更されます。

* ARC USB 接続端子を搭載したデバイス（リモート対応）：このモードでは、ARC USB が PC に接続されている場合、技術的な理由でステップ幅はデフォルト・モードと同じになります。

■ All Off（全ての機能をオフ）

すべての機能を無効にします。元に戻す機能はありませんので、このボタンを誤ってクリックした場合は、OK を押さずに Cancel をクリックして以前の設定を復元してください。

■ Default（デフォルト）

ARC USB のキー・ラベルに合わせた、便利な設定のデフォルト状態をロードします。

Usage of PC connected ARC USB (PCに接続したARC USBの使用方法)

初期設定は Shared です。ARC USB は接続されているすべてのデバイスと同時に動作します。複数のデバイスを使用する場合は以下を参照してください。

■ Ignore PC connected ARC USB

このオプションは、現在のデバイスで PC に接続された ARC USB を無効にします。

■ Disable when device is offline

オーディオ・インターフェイスがオフラインの場合に ARC USB の操作を無効にします。この設定により、TotalMix FX で複数のオフライン・デバイスをセットアップしても、ARC USB 関連のコンフリクトを防ぐことができます。

■ SysEx only

ARC USB が Mac Firmware Update Tool (<https://rme-audio.jp/download/>) を使用してファームウェア・バージョン 7 に更新されている場合、SysEx メッセージを介してのみ通信するように設定できます。これは、特に Mac プラットフォームでの問題を解決するのに役立ちます。アップデートの手順については、ファイルに付属の「はじめにお読みください」をご確認ください。

複数のデバイス（オーディオ・インターフェイス）を使用する際のご注意

ARC & Key Command Settings はデバイスごとに個別に設定・保存されます。ARC & Key Command ダイアログを呼び出すと、TotalMix FX で現在選択されているインターフェイスが参照され、そのインターフェイス名がダイアログのタイトル・バーに表示されます（本章のスクリーンショットを参照）。

通信の競合を避けるために、それぞれのインターフェイスに必要な機能のみを割り当ててください。一度設定が完了すれば、ARC USB のキーやエンコーダー・ホイールは、各インターフェイスで割り当てられた機能をリモート操作できるようになり、通常の操作時には追加の切り替えや選択は必要ありません。



複数のインターフェイス（オンラインおよびオフライン）で同一の割り当てを行うことはサポートされていません。この場合、多くの場合、ボタンの点滅や音量コントロールが飛び跳ねるような動作で視覚的に示されます。

8. スタンドアロン・モードでの ARC USB (直接接続)

Fireface UFX+, UFX II, UFX III, UCX II, Fireface 802 FS, MADiface XT II のスタンドアロン・モードで ARC USB を使用する場合は、あらかじめ各ボタンにプリセットされたコマンドを使用することができます：

エンコーダー・ホイール

- Default : Main Out Volume (メイン出力)
- Phones 1 がアクティブ時 : Phones 1 Volume*
- Phones 2 がアクティブ時 : Phones 2 Volume (搭載されている場合) *

* Fireface 802 FS : 最大音量はフロントパネル上のポテンシオメーターの位置によって決まります。

キー

- 1 列目 : Setup 1-4
- 2 列目 : Setup 5-6、再生 - 次のファイル*、再生 - 前のファイル*
- 3 列目 : Mono、Volume Phones 1、Volume Phones 2 (搭載されている場合)、DIM (リコール 2 秒)

下段の 3 つのキーは、UFX+, UFX II, UFX III において DURec を制御します：録音開始、再生開始 / 一時停止、録音 / 再生停止 (UCX II は不可、UCX II の DURec ポートは ARC USB ポートと兼用です)。

注意：録音を停止するには Stop ボタン (DIM) を 2 回押す必要があります (安全機能)。UFX+, UFX II, UFX III では DIM は EXT INP キーで利用できます。

デバイスのディスプレイ・メニュー (Fireface 802 FS を除く) で、ARC USB の操作方法をスタンドアロン・モード用に設定することができます。これらのオプションは、SETUP/REV - Options - Hardware/Diagnosis にあります：

■ Standalone ARC Volume

全てのボタンを無効にします。エンコーダー・ホイールのみが有効となり、メイン・ボリュームの調整が可能です。

このオプションは、デバイスに ARC USB が直接接続され、かつコンピューターとオンライン状態の場合に、安全対策として活用できます。オフライン状態 (コンピューターとの切断、スリープなど) になると、デバイスがオンライン・モードからスタンドアロン・モードに切り替わると同時に、ARC USB の各ボタンの機

能も変更されます。この際、キーを操作すると意図しない機能や設定変更が発生する可能性があります。

■ Standalone ARC 1s op

各ボタンを 1 秒間押し続けることで、プログラムされた機能が実行されるオプションです。この安全機能は、意図しない変更を防止します。このオプションは各 Setup に記録されるため、このモードを有効にした設定が読み込まれると自動的に有効になります。逆に、この機能が有効でなかった設定が読み込まれると、このモードは自動的に無効になります。

■ Standalone ARC normal

ARC USB の通常モードです。

Fireface 802 FS にはディスプレイがないため、スナップショットを読み込む際には Standalone ARC 1s オプションが常に有効になります。

また、DIM キー（または EXT INP）を 2 秒間押すことで使用できる Recall 機能があります。Recall の値は、本体の Setup → Options → Control Room → Recall Volume で設定します。

付属のステッカーには、スタンドアロン用のレイアウトも用意されています。

デバイス固有の機能や変更についての最新情報は、デバイスのユーザーガイドを確認してください。

9. 免責事項および保証について

ARC USB は出荷の前に、ひとつひとつ品質管理およびコンピューターでの完全なテストを行います。そのため、本マニュアル記述における通常のご使用での不具合に限ってのみ、十分な保証をいたします。

RME の修理サービスは、保証期間中はお買い上げの販売店にて受け付けております。お買い上げの製品に不具合がある場合は、ご購入された販売店までご連絡下さい。その場合、ご購入時のレシート等のご購入証明が必要です。また、本体のシリアル番号をご確認させていただく場合がございます。破損の恐れがありますので、お客様ご自身で製品を開梱しないでください。本機は不正開封防止用のシールで密封されており、そのシールが破損した場合、保証は無効となります。

正しく設置しなかったり、あるいは正しくお使いにならなかったために損傷した場合は保証の対象外となります。この場合の交換ならびに修理は有償となります。

株式会社ジェネレックジャパンはいかなる性質の損害賠償請求、特に間接損害の賠償請求は受けかねます。責任の範囲は ARC USB の価値に限らせていただきます。

10. 追補

RME ニュース、最新版ドライバー、製品に関する詳しい情報は弊社ウェブサイトに記載されています：<https://rme-audio.jp/>

ディストリビューター：Audio AG、Am Pfanderling 60、D-85778
Haimhausen、Tel.: (49) 08133 / 918170

商標

商標全ての商標および登録商標はそれぞれの所有者のものです。RME は、RME Intelligent Audio Solutions 社の登録商標です。TotalMix、TotalMix FX、Advanced Remote Control、ARC USB、Fireface、Fireface 802、Fireface UCX/UCX II、Fireface UFX/UFX II/UFX III/UFX+、MADiface XT II は RME Intelligent Audio Solutions 社の商標です。Microsoft、Windows は Microsoft 社の登録商標です。Mac、Mac OS は Apple Computer 社の登録商標です。

Copyright©Matthias Carstens、3/2025。バージョン1.6
マニュアル執筆時の TotalMix FX バージョン：1.99

本ユーザーガイドの内容に誤りがないよう十分に校閲し、万全を期しておりますが、RME は誤りがまったくないことを保証いたしません。万一、本書に誤解を招くような、もしくは誤った情報があった場合でも、RME はその責任を負いかねます。RME Intelligent Audio Solutions の書面による許可なしに本書または付帯するソフトウェアの一部でも貸与、複製、あるいは商業目的で使用することは禁止されております。RME はいつでも予告なく仕様を変更する権利を有します。

11. 日本語ユーザーガイドについて

- 1.本ユーザーガイドの著作権はすべて本製品の製造元および株式会社シンタックスジャパン、株式会社ジェネレックジャパンに帰属します。
- 2.本ユーザーガイドの内容の一部、または全部を株式会社ジェネレックジャパンの書面による承諾なしに複写・転載、複製、送信、情報検索のために保存すること、および他の言語に翻訳することを禁じます。
- 3.本ユーザーガイドに記載されている事柄は、将来予告なしに変更することがあります。
- 4.本ユーザーガイドは、本製品の使用許諾契約書のもとでのみ使用することができます。
- 5.本ユーザーガイドを使用した結果の影響については、一切責任を負いかねますのでご了承ください。
- 6.本ユーザーガイドに記載されている会社名、製品名は、各社の商標および登録商標です。

12. CE / FCC 規制への適合

CE

本機は試験の結果、電磁波両立性の相当法規に関する欧州理事会指示の定めるデジタル機器に関する基準 RL2014/30/EU と European Low Voltage Directive RL2014/35/EU に適合することが認定されています。

FCC

本機はFCC RulesのPart 15に適合します。動作は次の2つの条件に従います：(1) 本機は有害な妨害を生じてはならない、また (2) 本機は望ましくない動作を引き起こす妨害を含みかかなる妨害も受信する。

ご注意：適合責任を負う当事者による承認なしに本機を改造及び変更した場合、使用者が機器を操作する権限が無効になる場合があります。

米国における責任者：

Synthax United States, 6600 NW 16th Street, Suite 10, Ft Lauderdale, FL 33313

T.:754.206/4220

商標名：RME、商品名：ARC USB

本機は試験の結果、FCC 規則第 15 章に定められたクラス B デジタル機器に関する規制要件に適合するものと認定されています。これらは、住宅に設置されることによって発生し得る有害な干渉を正当に規制するために定められています。本機は無線周波エネルギーを生じ、使用し、また外部に放射することもあるため、本書に従って正しく設置および使用しない場合、電波状況に悪影響を及ぼすおそれがあります。ただし、どの設置条件でも干渉が起きないという保障はありません。本機がラジオやテレビ受信の干渉の原因となっている（本機の電源をオン、オフすることで確認できる）場合には、下記の方法によって干渉に対処してください。

- 受信アンテナの設置場所や方向を変える。
- 機材から受信機への距離を大きくする。
- 別回路のコンセントに接続する。
- 取扱店または資格のあるラジオ・テレビ技術者に相談する。

RoHS

本製品は無鉛はんだを使用しており、RoHS 指令の要件を満たします。

RME